照明探偵団通信

vol. 102 Shomei Tanteidan Tsu-shin

第 65 回街歩き：池袋

消滅可能都市からの脱却を果たした池袋の夜間景観を探る

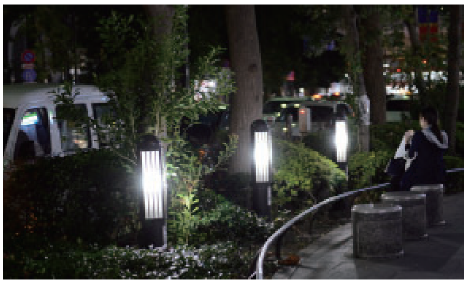
2019.11.15　古川智也 + 坂口真一 + 張文源 + 東悟子

国際アート・カルチャー都市を目指す豊島区。その中心となる池袋再開発の拠点となる公園の光を中心に検証し、渋谷や新宿と比較してみました。

白い光があふれているサンシャイン通り　360 度カメラで撮影

雰囲気のいい中池袋公園と HAREZA　赤い階段が目立つ

白いファサードが好印象の PARCO



グリーン大通り　ベンチ前のボラード照明が眩しい

豊島区役所外階段　直接目に入らず高評価

消滅可能性都市から脱却した池袋再開発の拠点となっている公園の光を検証し、新宿や渋谷との違いを比較しました。

■ 1 班：JR 池袋東口→中池袋公園→サンシャイン 60 →東池袋中央公園

1 班街歩きのメインは開業したばかりの HAREZA ときれいに整備された中池袋公園。駅前の白が印象的な PARCO やメーカーのロゴが白く光り、統一感があるビックカメラのファサードなど、好印象の中街歩きがスタートしましたが、すぐに量販店から漏れてくる過剰な照明でがっかりモードに。サンシャイン通りの街路灯に巻き付いているピンクのクリスマスイルミネーションにも厳しい批判の声が。洗練された街にしようというチャレンジが各所に見られるのですが、ちぐはぐな印象。

今回のメインの中池袋公園は、暗過ぎず明る過ぎず丁度いい照度と多目的に使える開放的な空間が英雄との声が多く上がりました。HAREZA は劇場の赤い階段がハイライトされ遠くからも目立ち、夜劇場へ向かう人の気持ちを高める効果がありそうです。

次に開業 40 年経つサンシャイン 60 やサンシャイン通りへ。白い光あふれる通りは「THE 池袋」という感じがしました。犯罪者だという声もありましたが、多くの人でにぎわっているのを見るとこれも人を魅了する明かりなのかなという気に。

東池袋中央公園は真っ暗で恐怖を覚えます。その公園は元の処刑場だという話を聞いていたからか、暗闇に座っている人たちは不気味に見え、一刻も早く立ち去りたくなる公園でした。ただしばらくいると目がだんだん慣れ、周りの高層ビルからの漏れ光のおかげで快適なことが判明。ただ周りの光が全部消えたらと想像するとぞっとする公園でした。

夜でも人が外に集まる場所を創出しようと様々な仕掛けを展開している池袋にはみんな好印象。今後の開発も益々楽しみです。　　　　（東悟子）

■ 2 班：JR 池袋東口→グリーン大通り→豊島区役所→南池袋公園周辺

まずはグリーン大通り。交差点毎に照明や街灯の雰囲気が変わる特徴のある通りでした。駅の近くは以前からあるような色温度高めの街灯ですが、眩しさは抑えられ不快な印象は少なかった様に思います。

道を進むと色温度が低く、ガーデンライトのような照明と少し背のあるスポットライトが設置されていましたが、光が直接目に入り眩しく、全体の雰囲気はよいのですが残念な感じでした。首都高近くは歩道中央にある照明が低く直接目に入り眩しさを感じました。歩道側のベンチ付近の器具はよかったのでこれも残念でした。

高層住宅と一体開発された豊島区役所。外階段の手すり照明には器具を見せず光を綺麗に見せる工夫を感じました。

少し前の池袋を残す街並みも歩きました。この辺りから高層マンションを見ると、住宅の明かりも色温度が低くなってきたのを感じますが、反対にサンシャインビルのオフィスの高い色温度が目立ちました。

最後は南池袋公園。木に実が付いたように見える照明など、夜の公園全体の雰囲気はとても良い感じでしたが、残念だったのは周囲にある建物の光が主張し過ぎて目に入ることでした。

池袋周辺はこれからも再開発が進み進化していくと思いますが、街全体としての一体感を感じさせる夜の街並みを作ってほしいと思います。

（坂口真一）

■３班：池袋西口公園→自由学園明日館

３班は池袋西口公園からライト設計の自由学園までの芸術・文教エリア担当。新しい施設と歴史的建物を巡り、街全体の光を検証しました。

最初に訪れたのは立教大学。窓明かりと照明を当てる場所を絞り込み、心地良い空間を演出。温かみのある照明に包まれた校舎と、必要最低限の光で構成された中庭は、心地よい空間になっているように感じました。

一方で立教大学周辺の歩道照明は寒々しい白色で、立教大学の色温度の低い暖色の光との差に違和感がありました。電球色でグレアを抑えた照明ができれば、豊かな光環境がつくれるのに勿体ないという意見がありました。

重要文化財の自由学園明日館も訪問。魅力的なガラス窓、天井と大きな吹抜けに加え照明デザインも印象的。建築の中に光がうまく溶け込むような丸い照明器具が特徴でした。2300Kという心和ませる色温度は意図してデザインされたことが判明。また暖炉のパチパチと音をたててゆらめくあかりにほっとさせられました。あかりの原点「炎」に勝るものはないという意見で英雄になりました。

残念なのは講堂の舞台頭上の照明。最近直管のLEDに付け替えたようですが、空間全体に合わず、舞台ならではの臨機応変に対応できる照明になっていないようでした。また、明日館講堂と自由学園明日館の間の眩しい街路灯は悪目立ちしていました。煌々と輝くあかりは周りの建築に合わず犯罪者になりました。

最後はこの春開業したSEIBUダイヤゲート。最新建築なので期待していましたが、ベンチ下照明の輝度が強かったり、入り口の看板の照明の光源がみえて眩しく感じたりしました。

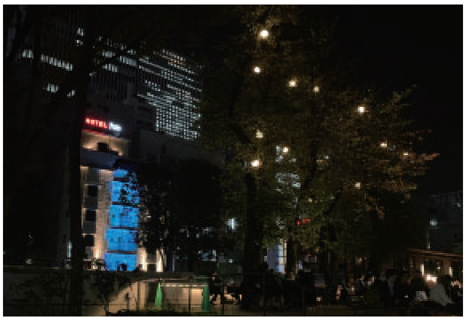
池袋は照明を工夫した建築と、街路灯の統一感がないのが印象的でした。街路灯が所々色温度の統一感がなく、照明は防犯用と思われているのではないかと感じました。

（張文源）

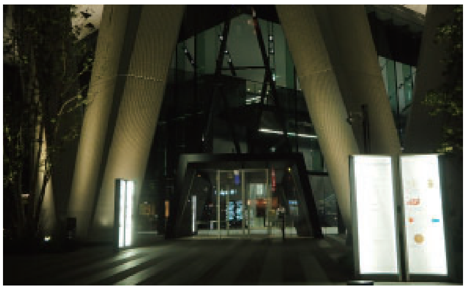
■４班：JR池袋北口→みずき通り→西一番街中央通り→ロマンス通り→トキワ通り→平和通り→劇場通り→東京芸術劇場 / 西口公園

４班は池袋駅西側の北側の歓楽街エリアと西口公園を歩きました。

・歓楽街：チャイナタウンとも称されるこのエリアは、飲食店や娯楽施設、風俗店が混在しているにもかかわらず、ロサ会館をはじめとして古い建物が多いため、渋谷や歌舞伎町にあるような大量の光を発する大型看板がありませんでした。そのため、日本を代表する歓楽街という割にあまりギラギラ感はなく、統一感はないものの昭和の匂いがする光環境でした。


木になる実のような照明　周りの施設からの照明が邪魔に

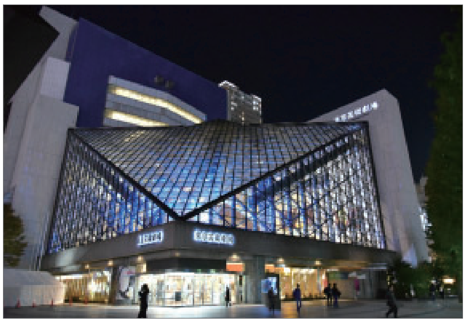
立教大学の心地よいあかり


SEIBU ゲート　見る角度によってはサインの光源が眩しい

明日館 自由学園－心地の良い空間に犯罪者を発見！

平和通り　一面を照らすオレンジの光で家路を安全に照らす

芸術劇場のアトリウムを見学


東京芸術劇場　上品なブルーの光で綺麗に彩られている

グローバルリング　リングのLEDランプが見えて眩しい

カラフル過ぎる光を放つ雑居ビルや店名を強烈な光で白く輝かせるサイン等々、周囲を気にしない飲食店が多い中で、白壁に赤い唐辛子のサインがアイキャッチとなった、一見カフェ風のラーメン店は、お洒落で英雄となりました。

街路灯は通り毎にデザインが異なり、種類も数も多いのもこのエリアの特徴で、ひとつの通りにデザイン違い・機能違いの街路灯が林立状態の通りもありました。LED化でグレアが酷いもの、消えかかってゾンビ状態のLEDランプが放置されている街路灯等は犯罪者に挙げられました。

他方、歓楽街を抜けたところにある平和通りの街路灯は、緊張を解放し安心させるオレンジの光が等間隔に並んで（路面照度50Lx程度）、見通しの良い家路を安全なものにしていました。

・東京芸術劇場＆リニューアルされた西口公園：芸術劇場のガラスのアトリウムは、三隅を照らすブルーの光が挿し色として効いて綺麗で、内部空間も居心地良く英雄となりました。

グローバルリング下の空間は、仮設の屋外ステージとして使用されるため、音楽や噴水とも連動する舞台照明が施され、器具の取付け位置や光量・照射角度も演出性が優先されて、残念ながらグレアを感じました。訪れる人を癒し、楽しませるコンテンツに期待です。（古川智也）

新しい文化施設や公園の竣工が続いている池袋。渋谷新宿に比べ町全体が明るさを抑えていたり歴史的建築が多くあったり、池袋の印象が変わる街歩きになったようです。

（東悟子）

第 62 回照明探偵団サロン

池袋街歩きレビュー

2019.11.29　　東悟子

次々に公園や文化施設が整ってきている池袋での街歩きのレビューを開催しました。４班に分かれての街歩きの報告は池袋の多面性を表していました。
２０名の参加者で活発な意見交換会になりました。

１１月１５日に開催した池袋街歩きの報告会を開催しました。池袋は４班に分かれて街歩きしたのですが、それぞれまったく特徴の異なるエリアだったようで発表内容も盛りだくさんになりました。

東口から新しく開業したHAREZA、サンシャイン60 を中心に歩いた１班の英雄は、駅前のPARCO の白い上品なファサードやオープンしたばかりのHAREZA の外観や中池袋公園の明るすぎず落ち着いた光の空間。

一方駅前の家電量販店は他の街同様明るすぎて犯罪者との判断に。その他暗すぎて不気味な東池袋中央公園は最大の犯罪者として挙がりました。

東口から豊島区役所、南池袋公園を中心に歩いた２班の犯罪者はグリーン大通りで見られた様々な街路灯やボラード照明。グレアがかなり強く感じられ、ただただ眩しくなっていたようです。

英雄に上がったのは豊島区役所の手すり照明や南池袋公園のさくらんぼの実のように木に設置された照明。南池袋公園は全体的には暗くなっているが、遊具などが所々ハイライトされ、夜でも居心地の空間になっていたとのことでした。

西口から立教大学、自由学園明日館を巡った３班はこの２施設を絶賛。夜訪れるべきスポットとして推薦していました。

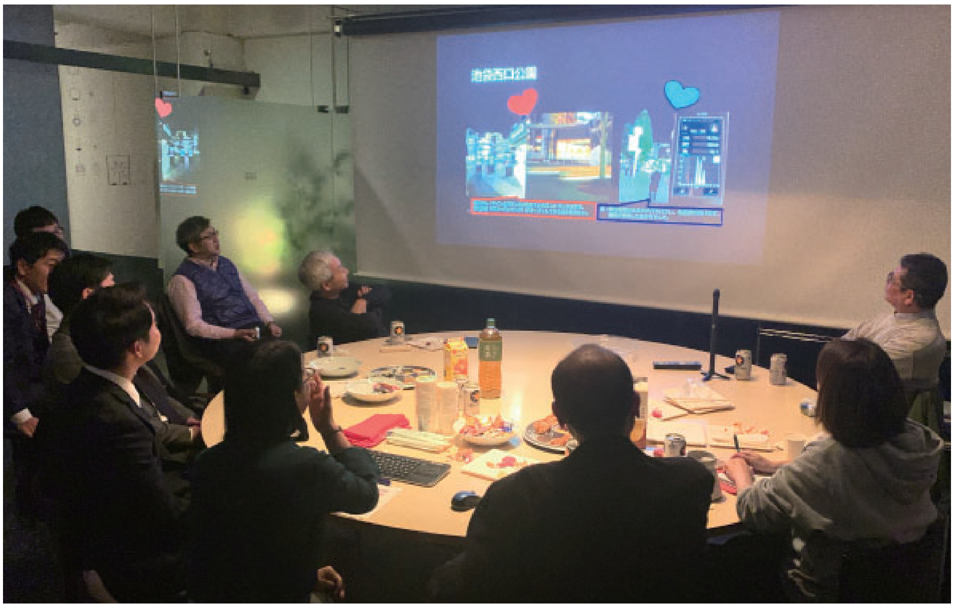
立教大学の周辺の街路灯が寒々しい白色だったので、 電球色でグレアを抑えた照明ができれば、豊かな光環境の街がつくれるにもったいないという意見や住宅街の防犯灯が輝度が高く目に痛いという指摘もありました。

西口から歓楽街や東京芸術劇場、その前のグローバルリングを歩いた４班の英雄は東京芸術劇場。劇場の白と青の照明が上品で存在感があると高評価だったようです。また平和通りの街路灯が色温度が低く、しかも眩しくないとのことで英雄に。安心感を与えるいい照明だったとのことでした。

犯罪者のひとつに挙げられていたのは竣工日を翌日に控えたグローバルリング。円形のルーバーの間接照明のつぶつぶカン感と光源が見えてしまうのが残念との意見が挙がりました。

全体的には池袋に行く前より行った後の印象の方がよかった、という声を多く聞いたように思います。夜外を出歩いたり、公園で集まったりするのが楽しい工夫が街のいたるところに見受けられたようです。

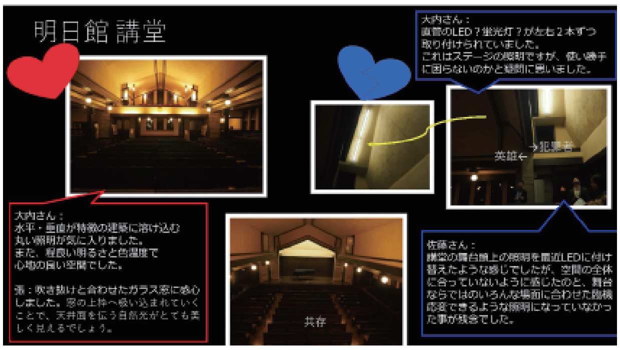
「はらはら、どきどき、文化がいっぱい」と謳っている豊島区の池袋の夜間景観の発展から目が離せません。



街歩き当日撮影してきた写真を使って解説

班毎に意見をまとめ発表

参加者２０名が丸テーブルを囲んで意見交換



発表資料

RE-IMAGINING GOLDEN MILE

Iconic Buildings in Singapore

2019.11.01

Sherri Goh, Niken Wulandari Sutanto, Quratuaini Jamil, Clement Lee

Golden Mile Complex and Golden Mile Tower are two of the most iconic buildings in Singapore that were completed between 1973-1974. Lighting Detectives investigated how lighting can contribute to preserve these historical buildings.

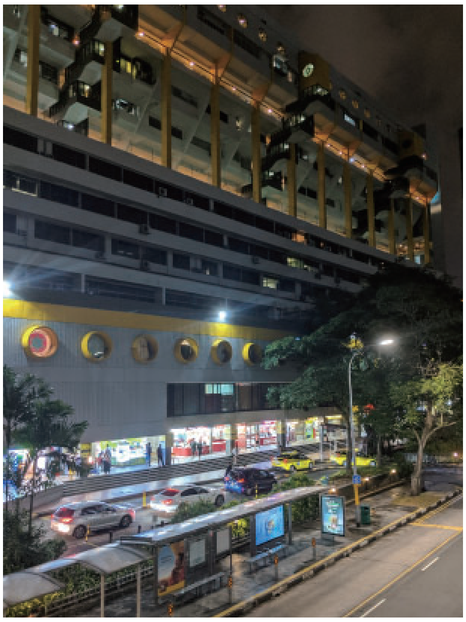
■ Introduction

Golden Mile Complex and Golden Mile Tower are two prominent buildings that were part of Singapore's plan to facilitate greater flexibility and autonomy in the comprehensive redevelopment of Singapore Central Area. The buildings stretch out in between Nicoll Highway and Beach road. Golden Mile Complex is a mixed-use development which consists of commercial, residential, entertainment services, and transportation center. It is a megastructure which was designed by Gan Eng Oon, William Lim and Tay Kheng Soon of the Singapore architect firm, Design Partnership (DP Architects). The vertical stepping blocks that form the unique terraces of the building has crowned the Golden Mile Complex to be one of the buildings with brutalism architectural style. Located at the next plot of land, the 24-storey building of Golden Mile Tower consists of rental office and retail space. The building was design by Goh Hock Guan Design Team.

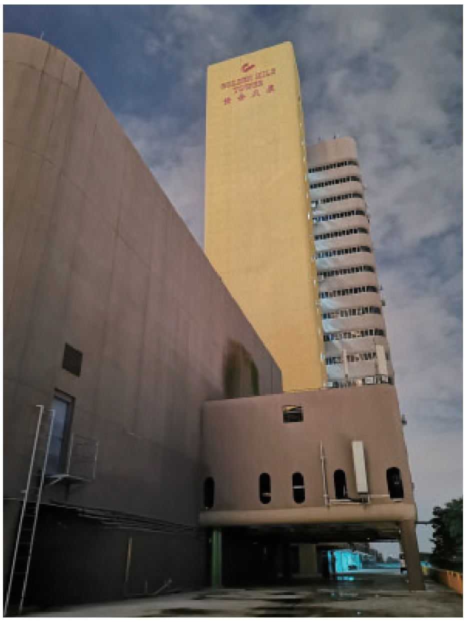
The two buildings are also been known as 'Little Thailand' due to the number of Thai cultured activities and stores that could be found within these buildings.

Our initiative from the Lighting Detectives is to look for ways to enhance such preliminary buildings for Singapore's redevelopment period into a new perspective using our best element named light and shadow.

A blend of Thai culture + Brutalism Architecture + Treasure trove of groceries and food + Pubs and KTV creates a unique blend of mismatch that invokes a flavour unique to Golden Mile Complex.
Photo by Darren Soh, Singapore.



A typical evening at Golden Mile Complex: the retail areas are still busy operating at the lower levels, while the offices at the mid levels are closed, and the residents are resting at the upper levels.



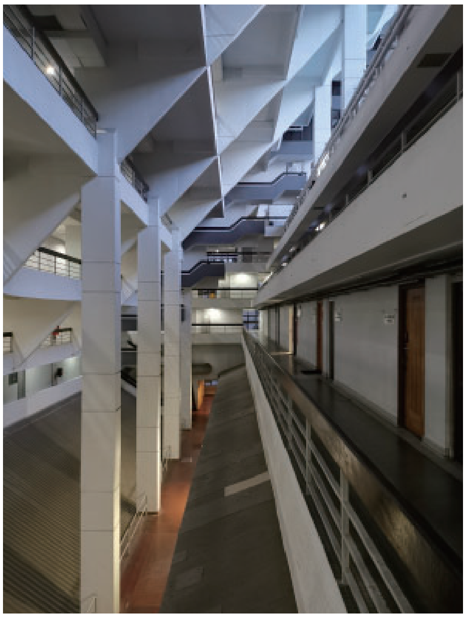
The iconic colour and facade design of Golden Mile Tower make the building recognizable even from afar.

On the event day, the participants were gathered at the ground floor of Golden Mile Complex. Due to the strict regulation from the building management, we had to limit the number of participants to a maximum of 20 spots. More than half of them are practising in the architecture and design industry, while the others are non-designers who are curious and have enthusiasm towards architecture in Singapore.

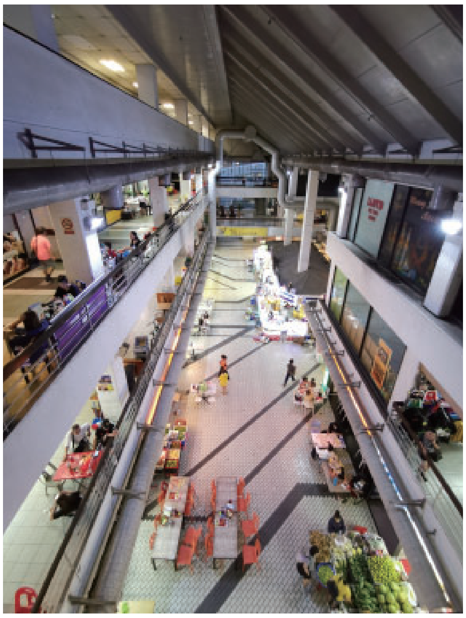
■ Nightwalk - Golden Mile Complex + Tower

Minutes away from the blue moment, we rallied them into the office area of Golden Mile Complex after gathering near the Taxi stand. After a short experiential walkthrough the grocery and restaurant areas that fill the 1st to 4th storey, the participants were briefed on gathering their thoughts and opinions on architectural origins and preservation of both Golden Mile Complex and Golden Mile Tower.

We each guided a group of approximately 7-8 Detectives through the open zig-zag stairwells towards the blue tint of the skylight at the top to uncover the overlapping of natural light within the office area. Detectives were thrilled to uncover that despite the brutalism style, the architecture of Golden Mile Complex catered for natural lighting that brings a glimpse of reliefs



Natural lights from Architectural provision seemlessly harmonizing with lighting fixtures creating a mild symphony in the office section.



Infusion of colours and smell of Thai produce creates a juxtaposition of senses once you enter Golden Mile omplex's retail premises.

The featured spiral staircase connects all floors at the building podium, including the indie cinema, and gives a distinct characteristic to Golden Mile Tower.

to the brutalist labyrinth of offices below. Upon reaching the top, discoveries of character filled residential units contrast the mundane sections below.

Upon reaching the top, discoveries of character filled residential units contrast the mundane sections below.

We continued to Golden Mile Tower through a smokey underpass not known to many of the public. Detectives were treated to a multi-sensory stimulation as the air fills with cigarette smog and chatters from bar hostesses during their break, dashed with neon lights from the bar signages. Emerging from the underpass, investigation tour brought detectives through Golder Mile Tower where several local-known amenities such as inter-country buses to Malaysia and Thailand, military sewing shops and an indie cinema from 1973 were hidden within the unique mix of overspill activities from Golden Mile Complex. Lighting Detectives investigation segment concluded with spectacular views of the city skyline from both the multi-storey carpark and Level 22 of Golden Mile Tower. Detectives consolidated their thoughts to share views on architectural history preservation efforts for the workshop planned later.

■ Workshop

As we walked down the iconic spiral staircase, we finally reached the end of the night walk. All participants were gathered inside an exhibition space at Golden Mile Tower for a workshop and discussion about the historical buildings.

We began with an introduction about Lighting Detectives. Prior to the introduction, architect Randy Chan from Zarch Collaboratives took the opportunity to share his valuable knowledge and insights on both Golden Mile Complex and Tower. Randy explained the design concept of the building was to be the first mix-used building in Singapore with a live-work-play concept, how it was designed to be monumental and massive in scale, and how it evolved to be one of the biggest space for Thai community in Singapore. Furthermore, he also shared the current issues and challenges in preserving the iconic and historic buildings, and the efforts to gain government and public support on the conservation project.

All of the participants are drawn to the presentation by one of our Lighting Detectives.

The workshop continues to the next session where we engaged everyone to participate. We started to re-imagine how the two iconic buildings would look like in different lighting schemes. By using the building images that are printed on the blue-paper and coloured pencils, all Detectives immediately poured the bright ideas in their mind into the sketches. Everyone was given a brief time to share the ideas that they have drawn, their impression and opinion on the architecture, as well as their expectation in the future.

Sketches on the blue-paper and colour pencils are the Lighting Detective's tools to express our ideas. It's so easy simple!

Majority of us agree that the buildings should be preserved as much as possible since they have become iconic to Singapore cityscape. Some of us also expressed that lighting could contribute to make the building looks more attractive, either by using a subtle lighting design or a bold and daring solution. Nevertheless, it was very interesting to see various opinions and expressions. it was a memorable experience for all of us to be able to observe the iconic buildings closely and to re-imagine a different perception of the buildings through lighting. Special thanks to Randy Chan for supporting this event, and to the building management team for allowing the permission.

In the near future, we are planning to have a follow-up event to light-up Golden Mile Complex and Golden Mile Tower. Stay tuned!

(Niken Wulandari Sutanto)

【照明探偵団の活動は以下の 20 社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社
ウシオライティング株式会社
岩崎電気株式会社
カラーキネティクス・ジャパン株式会社
株式会社ルーメンジャパン
株式会社遠藤照明
パナソニック株式会社
ERCO / ライトアンドリヒト株式会社
大光電機株式会社
株式会社 Modulex
コイズミ照明株式会社
株式会社 YAMAGIWA
東芝ライテック株式会社
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社
トキ・コーポレーション株式会社
湘南工作販売株式会社
山田照明株式会社
ルイスポールセン ジャパン株式会社
DN ライティング株式会社
三菱電機照明株式会社

探偵団通信に関してのご意見・ご感想等随時受付中です！

お気軽に事務局までご連絡ください。

照明探偵団通信 vol. 102 発行日 =2019 年 12 月 03 日
発行人 = 面出薫
照明探偵団・事務局 〒 150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-28-10 ライティング プランナーズ アソシエーツ内（東悟子）
TEL：03-5469-1022 FAX：03-5469-1023 e-mail：office@shomei-tanteidan.org http://www.shomei-tanteidan.org